

## ■プログラム担当より

佐藤 誠

プログラム委員長 (東京工業大学)

橋本直己

プログラム委員 (東京工業大学)

長谷川晶一

プログラム委員 (東京工業大学)

本大会には、165件の口頭発表、4件の作品展示、14件の技術展示、16件の企業展示があった。このうち7件の口頭発表は、IVRC(国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト)のオーガナイズドセッションの発表だった。

例年、VR学会の大会には、幅広い日本のVR研究が年に一度集結する場となる。今大会でも、VRの基礎から応用、技術からコンセプトまで様々な発表が集まった。プログラム委員会では、口頭発表の情報を1件ごとに1枚のカードにし、まず著者の選択したカテゴリに基づき分類した。次に各分類の発表数、カテゴリ、アブストラクトを見ながら6件以内のセッションを構成していった。

こうしてできた30のセッションを四つの部屋でのパラレルセッションとしてプログラムを構成した。プログラムを組む際には四つの大分類を設け、できるだけ聴講者の移動が少なくなるように努めた。具体的には、心理・芸術・インタフェースといった基礎分野、教育・訓練・医療・エンタテインメントといった応用分野、力覚・視覚・ウェアラブルといったデバイス分野、モデル化・可視化・レンダリング・複合現実感といったソフトウェア分野の4分野に分け、それぞれに部屋を割り当てた。

また、展示の見学と議論がゆっくりできるよう、休憩時間を多めに取った余裕のあるプログラムとした。実際には、セッションごとに聴講者が大きく入れ替わることも多く、聴講者にとって便利なプログラムが実現できたか定かではない。幸い、今年は四つの講演会場が同じ建物の同じ階に配置されたため問題なかったように思う。

VR学会大会では、立候補した若手の発表者による発表の中から学術奨励賞を選出する。口頭発表から5件以内、技術・作品展示の中から各2件以内の発表・展示を選出することになっている。今年は、口頭発表から101件、技術・作品展示から、それぞれ10件、2件の立候補があり、学生や若手の研究者が積極的に発表・立候補していたことが分かる。

また、一つのテーマの継続した研究発表、研究室全体で取り組んでいる大きなテーマをいくつかのサブテーマに分割して発表するものなどもあり、バーチャルリアリティ研究の成熟を感じた。



立ち見も出て活気あふれるセッション会場

## ■学術展示担当より

酒向慎司

学術展示担当 (東京大学)

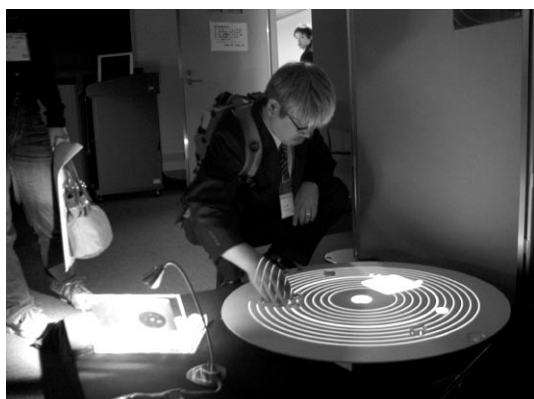
私の担当させて頂いた学術展示(技術及び芸術展示)では、大会期間中を通して沢山の人が訪れ、大変な熱気を感じました。私がこれまで経験してきた単なるポスター発表とは異なり、実体験のできるデモンストレーションが数多くあり、バーチャルリアリティ分野の先端に実際に触れることができたと感じました。誤解を恐れずに表現するならば、学術的な内容もさることながら、一般の方でも楽しむことができるこのような学会発表の場が他にどれだけあるだろうか、という思いです。



技術展示会場

学術展示以外では、口頭発表のセッションをほとんど見て回ることが出来なかったことは残念ですが、その他に心残りなこととしては、展示会場の詳細について私の案内に不備があり、発表者の方へ大変なご迷惑をおかけしてしまいました。しかし、限られた時間の中であっても、想定外の状況に合わせて出展内容を変更して、なんとか対応して頂けました。これには私の不備に申し訳なく思いつつも、発表者の方の対応に深く感心させられた出来事でした。

今回は、本大会の委員として参加させていただき、私自身としては初めて参加する学会であったため、いろいろと不慣れなこともあったかと思いますが、大会に向けた準備や、大会期間中の様々な発表を通して貴重な経験が得られました。このような大変有意義な機会を与えて頂き、大会の委員の方々と、大会に参加して頂いた学会員の方々に感謝いたします。



芸術展示会場  
\*口絵にカラー版掲載

## ■企業展示担当より

遠藤 恵一

企業展示担当 (ソリッドレイ研究所)

出展社数は16社19小間。昨年の実績は下回ってしまいましたが、幹事・川上先生を中心に IVR2005 会場での勧誘に加わっていただいたお陰もあり、なんとか当初の予算は上回る出展を集めることができほっと胸をなでおろしている。出展製品も多岐にわたり、ご来場いただいた皆様には満足していただける展示になったかと思う。

今大会の企業展示は、東大本郷キャンパス工学部6号館を2部屋使用しての開催となり、メイン会場とも言えるセッション会場、技術・芸術展示とは別棟での開催と

なった。そのため来場者の動員を目的にA室(展示室)にドリンクコーナーを、B室(セミナー室)の隣に受付を設置するなどいくつかの対策を行ったが、B室で初日・2日目とやや低調な人出となってしまった。そのため最終日には、セッション会場で企業展示のご案内を上映して頂き、またアルバイトの方の熱心な声かけのお陰で両部屋とも盛況となり、出展社の皆様にもご満足いただけたのではないかと考えている。

今回初めて大会準備に参加させていただき、不慣れな部分が多く幹事会メンバーの皆様には色々ご迷惑をおかけいたしました。幹事会メンバーの皆様、協力いただいた皆様に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



企業展示会場 A 室



企業展示会場 B 室

## ■企画運営担当より

□カルチャーツアー / 東京都写真美術館

齋藤 英雄

企画運営担当 (慶應義塾大学)

カルチャーツアーは「夜の美術館に行ったことがありますか?」と題し、9月27日の夜に恵比寿ガーデンプレイス内にある東京都写真美術館において行われた。